



F-R e l e a s e

エフ・リリース
NPO 法人 ふじ環境倶楽部 情報誌
VOL. 15~7 2005. 3月 発行

NPO 法人 ふじ環境倶楽部は、市民・企業・行政のパートナーシップを基本としながら、

●富士地域の自然及び社会的資源の掘り起こし、磨き上げ

●地域資源を活用したまちづくり計画の策定、まちづくり活動の実践

●市民団体相互のネットワークの構築 等

を通じて、市民がこの地域で誇りを持って働き、暮らしていける「資源循環・環境共生型のまちづくり」を目指して、楽しく、ゆっくり、着実に歩んでいます。(平成12年11月9日法人として設立)

◎ 「わくわく体験」今後の運営方法検討会

日時 平成17年3月1日(火) 14:00~16:00
場所 富士行政センター(富士総合庁舎内)
参加者 富士県行政センター 前島課長 鈴木主幹
富士県農林事務所 青木課長 増田主任
富士市商業労政課 小林主査
芝川町農林商工課 佐野参事
富士宮市商工観光課 赤池主幹
富士市観光協会 川島部長
富士宮市観光協会 遠藤専務理事
ふじ環境倶楽部 小池代表 栗原

●挨拶 富士県行政センター 前島振興労政課長
平成13年から4年かけて、準備・立ち上げ~実施~将来方策(下見ツアー)を行ってきた。

行政ベースではなく、民間ベースでの運営を指向し、ふじ環境倶楽部に受入窓口・コーディネーター役をお願いしてきたが、フォローが足りない点もあったと反省をしている。

3月いっぱい富士県行政センターも廃止され、沼津市の総合庁舎内の地域支援局に業務が移管される。移管されると言っても、人数的には縮小されるし、場所も遠くなるので今まで通りの対応ができるかどうかは不安が残る。

そんなことも含めて今後の「わくわく体験」の運営をどうするかということで、本日、関係者にお集まりいただいた。

● 「わくわく体験」の基本的な考え方と取り組み体制

ふじ環境倶楽部 小池代表

・富士山で遊び、富士山で学ぼう!をテーマに、大きく3つのコースを用意し、30近いプログラムを提供できるように準備した。

・ふじ環境倶楽部が受入窓口とコーディネーター役を引き受けて、全体の調整役として位置づけられた。

・体験費用以外に企画料を請求し、「わくわく体験」をふじ環境倶楽部の収益事業と考えたが、見通しが甘かった。

●成果と課題

*成果と対策 ふじ環境倶楽部 栗原

平成15年度 受付件数=21件 受入件数=8件(298名)

平成16年度 受付件数=5件 受入件数=3件(334名)

・グリーンツーリズムとの協調関係

・国際観光との協同営業

*課題

ふじ環境倶楽部 小池代表

・受入先との調整不足

・観光業のなかでの企画料としての別請求の難しさ

・予算的に広報・営業力が不足

●今後のあり方

・今後も収益事業としての運営が難しいこと、予算の手当が見込めないこと、行政センターが廃止されること等を鑑みて、ふじ環境倶楽部は「わくわく体験」の受入窓口業務から撤退したい。

●意見交換

*富士宮市観光協会

遠藤専務

・コナミスポーツの横浜支店からの依頼で、体験ツアーを受け入れている。17年度には、5月に80名、9月に160名、1月に80名を予定している。コーディネーターは受入施設のひとつでもある「朝霧ネイチャーランド」の中村さんをお願いしている。

・受入側も「わくわく体験」の受入をすることにより、体験型観光に目覚めたことは、「わくわく体験」の大きな成果だったと思っている。

*富士市観光協会

川島部長

・有料の受入施設は旅行会社でも斡旋できるが、無料(ボランティア的)の受入施設は旅行会社では難しいので、地元の人間のコーディネートが必要であるということで、「わくわく体験」は発足した。コーディネーター役は「観光業」の資格を持った法人が引き受けるべきであったが、そうでないふじ環境倶楽部が引き受けたところに最初から問題が潜んでいた。やはり、体験費用の他に企画料を請求するのではなく、受入施設側からバックマージンを取るやり方とするか、行政からの補助金で運営する以外方法はない。

*富士宮市観光協会

遠藤専務

・年間3万人の体験学習の集客実績のある飯田市も、市が新しく振興公社を作って、市の予算で運営している。全国に営業で駆け回っているが、もちろんその費用は公社(市)の予算である。

*芝川町観光協会

佐野参事

・立ち上げ時の詰めが甘かった。懸案を残したまま、最後は全てふじ環境倶楽部をお願いします。という形でスタートしてしまったことが、そもそもまずかった。「わくわく体験」を立ち上げて得をしたのは行政(県行政センター?)だけだ。

*富士県農林事務所

増田主任

・グリーンツーリズムの運営もコーディネーター役がいなければうまく運営できない。現状は富士ミルクランドがコーディネーター役を行っている。ミルクランド内の受入はもちろん、牧場

や農家への受入をコーディネートしている。(いずみ加工所もこれに入っている)

- ・ミルクランド以外の受入施設からは、バックマージンを15%取っている。

●今後の運営方法の確認

- *ふじ環境倶楽部が「わくわく体験」から手を引くのであれば、新富士駅観光案内所は個別の受入施設の案内だけにとどめる。
(富士宮市観光協会は最初からふじ環境倶楽部には情報を流さずに、個別の受入施設を紹介するだけであった)
- *ふじ環境倶楽部に直接依頼があった場合は(例: 静大付属浜松小学校)「わくわく体験」ではなくて、ふじ環境倶楽部の独自事業としてコーディネートする。
- *ふじ環境倶楽部を窓口とする「わくわく体験」は休止するが、今後、「わくわく体験」を何らかの形で活かして、補助金を申請するにしても、「広域」が補助金支給の条件であるから、観振協(富士市、富士宮市、芝川町で作った観光振興協議会)で運営することはできないのか。
3月中に観振協の幹事会があるので、「わくわく体験」の今後について、本日の検討結果も踏まえて話しをしてみる。
- *観振協の幹事会の結果にもよるが、「わくわく体験」を休止することになれば、「わくわく体験学習コース実施体制整備検討メンバー」と受入施設側にその旨を連絡する必要がある。できれば3月中に行政センターから通知を出したい。

以上

報告: 栗原

事務局 〒417-0815

富士市増川19-1

TEL. 0545-38-0088

FAX. 0545-39-0057

E-mail: adism@tx.thn.ne.jp

特定非営利活動法人 ふじ環境倶楽部